

草のみどり

Kusa no Midori

2022.

3

Special feature

公認会計士試験合格祝賀会
FRONT LINE 商学部



国際経営学部



Vol.12

FACULTY OF GLOBAL MANAGEMENT

大学での経験を 世界で働く準備にしたい

国際経営学部国際経営学科3年

兵庫県出身

でぐち ひでひろ
出口 英大

この学部に入って 良かったこと

2019年に中央大学国際経営学部に入學してから現在までの学生生活を振り返って、本当に良かったと感じることは、教授や職員といった周りの方々に恵まれていることと、個性豊かな仲間がたくさんいることだ。

入學した当初に唯一自分で定めていた目標は、大学在学中に就職の目的を立てることだった。その当時は自分のやりたいことも定まっておらず、希望する業界もなかったため、業種は何でもよいのでとりえず人の役に立つ仕事があればよい、という程度の考えであった。しかし、学生生活を通じてさまざまな刺激を受け、さらに人生の先輩方からいろいろなアドバイスをいただく機会もあったことで、現在は自分の将来像や職業をより明確に考えられるようになった。

ワシントンD.C.研修

1年生の夏、学部の短期留学プログラムでワシントンD.C.に滞在した。そのプログラムでは、アメリカの現地企業や世界銀行などの国際組織で働く方々からお話を聞く機会を設けていただいた。実際に勤務されているビルの会議室で、仕事の内容や普段苦労されていることなど現実味のあるエピソードを伺い、海外で働くことの難しさと素晴らしさを教えていただいた。また、プログラムを担当された綿貫先生から、海外で働くことの大変さ、面白さをお聞きする機会もあった。先生からは「失敗を恐れずに挑戦しなさい」とのアドバイスもいただき、以前から漠然と感じていた「海外で働いてみたい」という思いが、留学を通じて強く明確になった。

国際経営学部の強み

国際経営学部は7割以上の授業が外国



ワシントンD.C.短期留学での様子

語（主に英語）を使用していることもあり、大学卒業後は海外への進出という進路が視野に入りやすい学部である。外国人で日本に留学している学生、私と同じく将来は海外で働きたいという希望を持つ学生、過去に海外に住んでいたことからグローバル意識の強い学生も多く在籍しており、相乗効果でお互いに良い刺激を与えあっている。

たとえば、国家間貿易のルール形成のとおる問題点について話し合ったときには、その問題点を解決しようという意見、その国際組織が不平等な構造を改善すべきだという意見、そもそも問題が起こることが当然だという意見など、さまざまな視点から議論が起る。自分ひとりでは思いつかないような意見が頻繁に出るので、周囲の意見を聞くだけでもとても勉強になる。2020年は新型コロナウイルス感染症の影響で社会が急激に変化し、大学の講義の形態もオンラインとなったが、学友から刺激を受けられたおかげで海外へ行きたいという意欲は維持しやすかった。

学部内の雰囲気の話でいえば、学生が主体となって活動するイベントの存在も大きい。第1期生であるために、通常は上級生から受け継ぐであろう学部イベントなどは入学当初に存在しなかったが、率先して学部に貢献する学生や熱意あふれる先生方と事務職員の方々のおかげで、企業訪問の

運営や新入生のサポートチームといった新たな学部の取り組みが生まれている。私はこういった学生の自主性や、学部が学生のチャレンジを歓迎する雰囲気があることも、この学部の素晴らしい部分だと思っている。1学年300人と少ないながらも、同じ志を持つ仲間とは大学在学中のみならず卒業後も支え合っていきたいと感じている。

国松ゼミに参加

2020年の秋学期からは国松先生のゼミに所属し、国際的なビジネスに必要なルールや法制度について学んでいる。ゼミでは、ゲストスピーカーとして省庁などの公的機関、さらには航空業界やコンサルティング会社といった民間企業など、幅広い業種のスペシャリストの方々からお話を伺う機会を設けていただいた。国際経営学部では、民間企業出身の先生方が多いことに加え、ゼミ内でも第一線で活躍されている方々のお話を聞くことができるので、教科書を読むだけではわからないような実践的な学びがたくさんあった。特に印象に残っているのは、コンサルティング会社の代表をされている方の言葉だ。「仕事をすすめるうえでは相手が何を求めているのかを明確にし、それに加えて自分しかできないサービスを提供することが必要だ」と教えていただいた。この話は、私が社会に出た後に何度も思い出そうと常に頭にとどめている。

最後に、常に支えてくれる家族、学びの場を提供してくださる先生方や職員の方々、また、大学外からアドバイスしてい

ただいた方々に心より感謝を申し上げたい。大学卒業後は大学で学んだことを生かして、場所は国内国外を問わず、個性豊かな学友とともにグローバルな仕事に従事しながら精進していくつもりだ。



学友と食事



国松ゼミの仲間と

国際経営学部だより

挑戦し続けることは 成長と自信につながる

国際経営学部助教 姜 英英 (しょう えいえい)

本学部では、7割以上の授業が外国語（主に英語）で行われています。私が担当している専門科目と演習科目は原則としてすべて英語で実施されています。もちろん、学生の理解を深めるために補助言語として日本語や中国語を使うことがあります。経営や経済などといった専門科目を英語で学ぶことは、母語が英語ではない学生にとって、言うまでもなくとても挑戦的なことです。しかし本学部には、国際感覚を養いたい、グローバル人材をめざしたいなど、チャレンジ精神旺盛な学生が多いです。

2021年度春学期に開講した1年生の必修科目「入門演習」において、私は本学部のWaldenberger教授、そしてドイツのルートヴィヒスハーフェン経済大学のRoevekamp教授と一緒に5週間の国際ジョイントゼミ・プロジェクトを企画しました。本学部から20名、ドイツ側から34名、合計54名の学生が参加しました。学生ら

は9つのチームに分かれて、与えられたテーマを調べたり議論したりするうえで、英語によるレポートとプレゼン資料、そして5分程度のプロモーションビデオの作成、さらに英語による成果発表をしなければなりません。なお、各チームは本学部から2、3名、ドイツから3、4名、合計6名で構成されました。



言葉の壁、コミュニケーションスタイルの違い、さらに時差の問題などを考えると、果たしてこの国際プロジェクトがうまく進められるかと、我々教員の間には不安がありました。しかし、学生はすべての課題を見事にこなしてくれました。特にプロモーションビデオとプレゼンテーションの出来栄は、我々教員の期待をはるかに超えた素晴らしいものでした。プロジェクト終了後に、学生からたくさんのメッセージが寄せられました。そこで彼らは、自分たちの能力を過小評価してただけに、挑戦すればこんなにできるんだという達成感を覚えたことと同時に、さらなる成長をめざして頑張りたいという強い意欲を示してくれました。

私は、失敗を恐れず挑戦し続ける精神こそが成長と自信の源泉だと考えています。これからも学生にいろいろな挑戦できる環境を提供し、彼らの成長をサポートしていきたいと思っています。